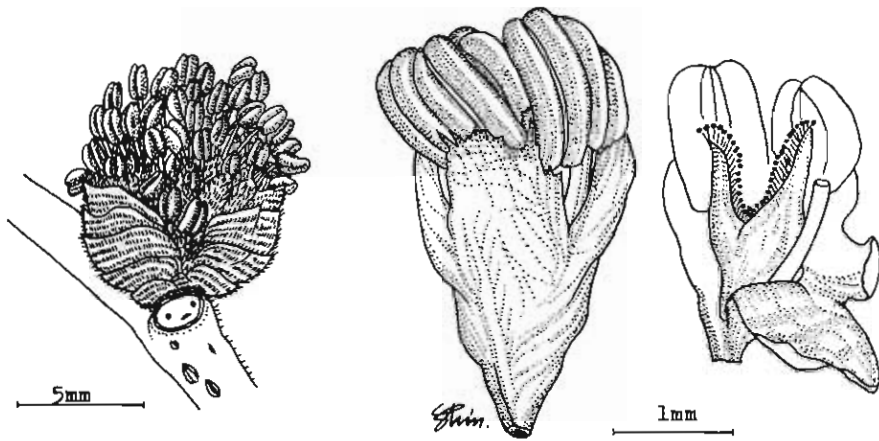


樹木だより

ハルニレの花

春まだ浅い4月下旬から5月上旬にかけて、ハルニレの一年生枝に小さな花が群がり咲く。花びらを持たないこの風媒花は、開葉前の方が受粉に好都合らしい。木の芽がふくらんだくらいにしか見えないが、枝をたぐり寄せれば、花芽の鱗片が開いていて、たくさんの葯がひしめき合っている（左図）。鱗片を取りのぞくと、ひとつの花は4本の雄しべが1束になって、がくに包まれ、無柄であり、多数が集まって密な集散花序をつくっている（中図）。がくを除くと、緑色の雌しべが現われる（右図）。



(道北支場 斎藤新一郎)